

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	新潟市立児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年1月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年1月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	19施設	(回答数) 18施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問先の実状を踏まえた支援方法の提案を行うように心がけている。また、支援方法を1つに絞らず、複数用意し、取り入れやすいものから実践してもらえるようにしている。	・訪問後に同一業務の職員でPDCAサイクルを意識し、支援内容の振り返りやお子さんの状態を共有している。	・現在行えていない第三者評価を今後検討していく。
2	・どのような視覚支援が良いのかなど、子どもの特性を踏まえ、複数ある支援ツールの中から選ぶことができる。	・個に合った支援ツールが無かった場合に複数の支援ツールからアイデアを合わせ、個に合わせたオリジナルグッズを用意することができる。	・訪問支援に使用している教材、教具について保護者により分かりやすく伝える方法を検討していく。
3	・子どもや障がいについての専門的な知識と当施設内の通所児童への支援の実績を基に"子どもの困り感"に迅速に対応できる。	・園の実状を十分理解した上で、子どもの権利を尊重する合理的配慮の提案をしている。 ・子どもや家庭の最善を考慮し、児童相談所や保健師、医療機関、健康福祉課など複数の機関と連携して支援している。	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ホームページやSNSでの取り組み発信が弱いと感じる。	・事業概要と広報誌を年に1回ずつ発信しているが、SNSの活用としては機会が少ない。しかし、普段の取り組みは個に合わせた支援であり、その内容を発信することは難しいと考える。	・SNSの活用に向け、情報収集を行い、活用していけるようにしたい。
2	・訪問支援後のカンファレンスが施設側の負担になっていることがある。	・カンファレンス時に訪問先に対して的確な支援方法の提案ができておらず、必要性を感じてもらえていないと考える。	・時間調整が可能ということを伝えと共に、カンファレンスの大切さを周知し、カンファレンスを行って良かったという体験ができるようにしていく必要がある。 ・訪問時の訪問先施設の様子を見て、カンファレンスの行い方を一緒に考えていけるように確認していく必要がある。
3			